

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和3年5月号



【東牟婁振興局】5/11 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】
～産地面談会を経て1人が就農（研修）予定～

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 令和3年産柑橘類の着花状況調査の結果	
2. ビワキジラミ発生状況調査を実施	
II 那賀振興局	2
1. あら川の桃受入協議会が研修生の受入開講式を開催	
III 伊都振興局	3
1. クビアカツヤカミキリ成虫離脱防止のネット被覆指導	
2. 採種エンドウのエンドウゾウムシ発生消長調査	
IV 有田振興局	4－5
1. ウメ「南高」の摘心処理（2次伸長）を実施	
2. 「ビワキジラミ」の発生状況調査	
3. 令和3年度田んぼの学校（糸我小学校）がスタート	
V 日高振興局	6－7
1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】 ～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～	
2. 地元の花で心を華やかに・・・ 「花育」活動を実施	
VI 西牟婁振興局	8
1. 上秋津小学校で米とみかんの出前授業を実施	
VII 東牟婁振興局	9
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお” 苺産地の体力強化】 ～産地面談会を経て1人が就農（研修）予定～	
VIII 農林大学校	10
1. GAP演習がスタート！	
IX 就農支援センター	11
1. 令和3年度社会人課程開講	
2. 令和3年度技術修得研修（第1班）開講	

I 海草振興局

1. 令和3年産柑橘類の着花状況調査の結果

5月6日、7日、和海地方の柑橘類着花状況調査を実施した。JA、農業共済組合、JAグループ和歌山農業振興センター、海南市役所、県関係機関が協力し、温州みかん123園地と中晩柑類（清見、不知火、はっさく）28園地の計151園地の着花量や新梢の発生程度を調査した。

調査の結果、着花量は園地や樹によるバラツキがあったが、総体的に平年より少ない状況であった。また、満開期は昨年並からやや早く、平年より3日程度早いとみられる。

普通温州を中心に着花量の少ない園地が多数見られたことから、少しでも多く収量を確保できるよう、今回の調査結果を今後の管理作業の指導に役立てていく。



着花状況



調査状況

2. ビワキジラミ発生状況調査を実施

5月28日、果樹試験場、JAながみね、農業水産振興課で海南市下津町内ビワ園地を巡回し、ビワキジラミの発生調査を実施した。ビワキジラミは平成24年、国内で初めて徳島県において確認された害虫である。幼虫・成虫ともにビワの樹液を吸汁し、特に幼虫の排泄物が付着した葉や果実

にはカビが発生して「すす病」となり、黒く汚れるため問題となる。

今回は、上出、松尾、土井原、笠畑、百垣内、興地区の合計64園地において、本害虫の有無を調査した。昨年度は66園地中36園地にて発生があったが、今回の調査では63園地に発生が拡大し

ていることから、関係機関と具体的な防除対策について検討していく。



現地調査



葉裏のビワキジラミ

Ⅱ 那賀振興局

1. あら川の桃受入協議会が研修生の受入開講式を開催

5月28日、あら川の桃受入協議会（会長：下田和敬二氏）で初めてとなる研修生1人の受入開講式が、JA紀の里西部流通センターで開催された。

当日は、研修生、JA紀の里あら川の桃部会研修サポーター、また関係機関であるJAグループ和歌山農業振興センター、紀の川市等からの担当者も含め、計25名が出席した。

今回、当協議会が受け入れる研修生は、既に紀の川市へ移住しており、今後2年間の研修を経て、モモ農家を目指すこととなる。

開講式では、研修生と関係機関担当者との顔合わせや自己紹介があり、研修生からは、「異業種からの転身であるが、一人前のモモ農家になるため、精一杯頑張っていきたい」との抱負が聞かれた。

農業水産振興課では今後も、あら川の桃受入協議会のオブザーバーとして、新規就農希望者の受け入れを支援していく。



開講式の様子

Ⅲ 伊都振興局

1. クビアカツヤカミキリ成虫離脱防止のネット被覆指導

伊都管内では、クビアカツヤカミキリによる被害が、橋本市、かつらぎ町のスモモ、モモ、ウメの樹で発生している。昨年までの調査で既に被害が確認されているスモモ、モモ園において、4月以降の調査でこれまで被害の確認されていなかった樹に新たにフラス（木くずと虫糞が混ざったもの）の排出を確認するなど被害樹が増加している。

5月12日、J A紀北かわかみと農業水産振興課が、かつらぎ町で被害が発生している園のうち、スモモ、モモの合計6カ所の園地において園主および近隣の生産者対象に成虫離脱を防止するため各園モデル樹1本を設定し、ネットの被覆方法について現地研修を実施した。ネットは目合い4mm以下で視認性の良い黒色を勧めた。

当課では引き続き、関係機関と連携し、防除対策に取り組む。



成虫離脱防止のためのネット（黒色）



参考：成虫とネット（青色）（令和2年）

2. 採種エンドウのエンドウゾウムシ発生消長調査

伊都地方のエンドウ種子生産現場では、5年ほど前からエンドウゾウムシが発生し、幼虫に豆の中身を食害される被害が増えている。収穫した種子は、手選別で被害粒を除いているため、選別作業の労力増大が問題となっている。また、有効薬剤や防除適期などが不明なため、農業試験場が農林水産業競争力アップ技術開発事業（令和2～4年度）でエンドウ種子の安定供給のために早急に防除対策を確立することになった。

ほ場への飛来時期、産卵時期等を特定し発生実態を解明するために農業試験場、農業水産振興課、J A紀北かわかみの職員で、4～5月に毎週1回発生状況調査を行った。

当課では引き続き、関係機関と連携して防除対策の確立に向けて取り組む。



発生消長調査



エンドウゾウムシ

IV 有田振興局

1. ウメ「南高」の摘心処理（2次伸長）を実施

5月25日、ウメ「南高」の摘心栽培による着果安定を目的に、有田川町中井原の実証園において4月に摘心処理した部位から発生した2次伸長分の摘心処理をJAありだウメ部会員及び営農指導員と共に実施した。

摘心処理は4～5月に数回必要で、4月に約20cmに伸長した新梢を10cm程度残して摘心し、5月に2次伸長分を5cm程度残して摘心する。2次伸長分の摘心を行わないと徒長枝となり、結果枝の増加が期待できないので重要な作業である。

ウメの摘心栽培は、充電式電動バリカンを用いることにより省力的に行え、増収効果が期待できる技術であるため、当課では今後もJAありだやうめ研究所と連携して普及活動に取り組んでいく。実証結果は、現地検討会などを通じて、生産者やJAに情報提供していく。



電動バリカンによる摘心処理



2次伸長摘心処理前



2次伸長摘心処理後

2. 「ビワキジラミ」の発生状況調査

ビワキジラミは平成24年に国内（徳島県）で初確認され、県内では平成29年に由良町で確認されたビワの新害虫である。

管内の産地である湯浅町田地区においては、これまで発生がなかったが、昨年の一斉調査において一部ほ場で発生が認められた。果実に大きな被害はなかったが、その後の発生を広がりを確認するため、今年も5月25日にJAありだ及び果樹試験場と共に調査を行った。

その結果、果実に大きな被害はないものの、発生ほ場率、生息密度ともに増加しているこ

とを確認した。ビワキジラミに加害されるとすす病が発生し、商品価値をなくすため、今後の防除対策について、関係機関と共に現地指導を実施していく。



発生状況調査



ビワキジラミ成虫

3. 令和3年度田んぼの学校（有田市立糸我小学校）がスタート

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催による「田んぼの学校」（校長：山崎佳彦氏）が21年前から行われている。当時、育成会の会長をしていた山崎氏が、学校給食から多くの残飯が出ていることを知り、子どもたちにお米のありがたさ、大切さを伝えるために始めた取組である。

児童は苗取り、田植え、稲刈りなど年間を通じて、コメ作りを体験するとともに、アイガモを水田に放して雑草の発生を少なくするアイガモ農法を実践し、収穫されたお米は、「鴨・米・美」“カモンバイビー”として、一般の方にも販売されている。

授業の一環として、5月6日に種まき、ふ卵器への入卵、5月18日にアイガモの卵の生育状況を確認する検卵が実施され、山崎氏と農業水産振興課職員で、ふ化に必要な条件や、受精卵の成長の様子について説明を行った。児童らは興味深い様子で、成長している卵を確認していた。

当課では、今後も農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



キヌヒカリと黒米の種まきをする児童



子供達がメッセージを書いたアイガモの卵



検卵方法について説明をする山崎佳彦氏

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】

～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～

クビアカツヤカミキリは、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木の内部を食い荒らし、枯死させる特定外来生物である。和歌山県では、令和元年11月にかつらぎ町で初めて本虫によるモモへの被害が確認された後、県北部地域で被害が拡大しており、今後日高地方への侵入・被害拡大が懸念されている。

5月28日～6月3日、日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）は、クビアカツヤカミキリの侵入警戒と蔓延防止のため、日高全域のサクラ樹植栽地85か所（計2,812本）を巡回調査（延べ57名参加）した。

サクラ樹の主幹根元から4m位置まで、1樹ずつ調査を行ったが、クビアカツヤカミキリのフラス（虫の排泄物と木くずが混ざったもの）等の発生は確認されなかった。

また、ウメ園での発生状況調査として、日高果樹技術者協議会によるウメ着果調査（4月下旬、5月中旬の2回、140園）と併せてクビアカツヤカミキリを調査したが、発生は確認されなかった。

今後も、継続的にサクラ樹植栽地やウメ園の巡回調査を行うとともに、各市町やJAの広報紙の活用や防除啓発チラシの配布等により、生産者はもちろんのこと、一般住民への啓発も並行して行っていく。



クビアカツヤカミキリのフラス発生状況等を調査（みなべ町[左]、美浜町[右]）

2. 地元の花で心を華やかに・・・ 「花育」活動を実施

5月14日、日高地方農業士会（会長：平林孝郎氏）と日高地方花き連合会（会長：弓倉弘氏）は、日高地方の小学校を対象とした「花育」活動を両会の共催により実施した。この活動は、子供たちへの情操教育の一環として、花とふれあう機会を通して豊かな心を育むとともに、全国有数の花き産地である当地方の花の生産について知って欲しいと毎年実施しているもので、今年で13回目となる。

「花育」活動にあたっては、管内の花き生産者からスターチスや宿根カスミソウ、カーネー

ションなど約 3,000 本が提供され、それらを花き連合会役員および農業水産振興課員が花束に加工。日高地方の花を紹介したパンフレットや、クリアファイル、先生用の参考資料とともに管内の小学校 31 校の 5・6 年生（74 クラス、1,225 名）に届けた。また、希望のあった 5 校では贈呈式を行い、うち 4 校ではミニ花束づくり体験を実施した。

日高川町立川辺西小学校では、5 年生を対象に贈呈式が行われ、平林会長と弓倉会長らが児童代表に手渡し、日高地方の花き生産や花の飾り方などの講話を行った。平林会長は「日本一の生産量を誇るスターチスなど、日高地方ではいろいろな花を作っています。今日は生の花に触れて親しんでください」とあいさつした。続いて、花き連合会の弓倉会長と木村文俊理事が「花瓶の水は毎日交換してください。直接日に当たらない風通しの良いところに置くと花は長持ちします」などと話した。

その後、ミニ花束づくり体験を行い、児童らは「花が大好きで楽しみにしていました。持って帰って毎日水を換えてあげます」などと笑顔で話していた。最後に児童らから「花を作っていてよかったことは何ですか」、「スターチスは何種類ぐらいありますか」など質問があり、弓倉会長は「花を作っていると心が和み、豊かな気持ちになります。スターチスは約 60 種類あります」と答えた。

今後も、「花育」活動への支援を始めとする普及活動を展開し、花き産地の更なる発展に取り組む。



贈呈式（由良町立衣奈小学校）



ミニ花束づくり体験（みなべ町立岩代小学校）



作った花束を持って記念撮影（日高川町立川辺西小学校）

VI 西牟婁振興局

1. 上秋津小学校で米とみかんの出前授業を実施

5月7日に田辺市立上秋津小学校の4年生(26名)を対象に米、5月27日には5年生(34名)を対象にみかんの出前授業を実施した。

この取り組みは、地域の主産業である農業について、各学年でテーマを決めて年間を通して学び、体験することで、子供たちに農業の素晴らしさを伝えるとともに理解を深めてもらうことを目的に、平成11年から実施しており、米の授業は今回が3年目の取り組みとなる。毎年、学校と地域の農家、JA紀南青年部、公民館、西牟婁振興局農業水産振興課等で組織する農業体験学習支援委員会の委員が協議し、活動計画に基づいて実施している。

米の授業では、村畑普及指導員から米の歴史、品種、産地や稲づくりの年間作業と収穫から食卓までの流れについて、スライドを用いて説明を行った。その後、事前に児童から提出のあった約20の質問について、村畑普及指導員がひとつずつ丁寧に回答し、後日の田植え実習を前に、米への関心がより深まったようであった。

みかんの授業では、前田普及指導員が、県内の産地や生産量、年間の管理作業や流通までの流れ等について、スライドを用いて授業を行った。上秋津地域はみかんの産地でもあることから、みかんのクイズでは児童の正解率が高く、事前に児童から提出のあった質問は40以上もあり、前田普及指導員がひとつずつ児童に分かりやすく回答すると、児童らは熱心にメモを取りながら聞いており、みかん栽培への関心の高さが伺えた。

当課では、今後も関係機関と協力しながら、地域農業を軸とした食育を推進していく。



米の授業



みかんの授業

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】

～産地面談会を経て1人が就農（研修）予定～

5月11日、みくまの産地協議会（会長：漆畑繁生氏）の産地面談会が、JAみくまの太田営農センターで開催され、昨年の第2回UIターン就農相談フェアに訪れた相談者（大阪在住）が出席した。

産地面談会では、相談者からイチゴでの新規就農の動機や希望を聞き、今後の就農に向けた研修内容や資金の説明をした。相談者は、那智勝浦町に移住し、産地協議会の研修機関（JAトレーニングファーム）で研修してからの新規就農を希望した。

その後、相談者は、研修修了者でイチゴを栽培している先輩就農者2名と意見交換をした。先輩就農者から就農するうえでの農地の確保や準備などのアドバイスやイチゴの営農面での楽しさや苦勞したことを実話を交えて助言があった。

協議会で検討した結果、JAトレーニングファームや地元農家で研修を受け入れ、相談者の新規就農を支援する決定をした。

今後も当課は、みくまの産地協議会のオブザーバーとして、イチゴの新規就農希望者の受け入れを支援していく。



みくまの産地協議会の産地面談会



先輩就農者との意見交換

Ⅷ 農林大学校

1. GAP 演習がスタート！

農林大学校では、国際化に対応できる競争力を身につけた担い手を育成するため、「GAP 演習」と題して 12 回の演習をスタートした。学生自ら「食の安全」、「労働安全」、「環境保全」等のリスク管理について体系的かつ実践的に学習し、生産工程管理の国際的な認証制度である GLOBALG. A. P 認証取得に挑戦する。

第 1 回目として 5 月 17、18 日に、2 年生 19 名がコンサルティング会社から GAP の概要を中心とした講義とほ場・集荷施設・資材庫での現場確認を行った。その上で問題点を洗い出し、グループ討議を行いリスク項目の整理をした。

当校は、昨年度 11 月に柿の GLOBALG. A. P 認証を取得しており、今年度は 10 月に柿の継続認証取得と併せてトマトの新規認証取得を目指す。



講義風景



外部講師とともに問題点を考える学生達

IX 就農支援センター

1. 令和3年度社会人課程開講

5月12日、就農支援センターにおいて社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）がスタートした。本年度は、県内外から7名が受講することになり、来年2月10日までの約9ヶ月間、講義と実習、農家研修などを実施する。開講式では、中谷所長の挨拶に続き、受講生一人ひとりが研修で学びたいこと、将来の展望などを語った。その後、オリエンテーションと場内説明を行った。開講式の翌日より、研修生は果樹・野菜・花きのそれぞれの講義と実習に臨んだ。これからの研修生らの頑張りに大いに期待したい。



社会人課程の開講式



果樹の実習
(ブドウのジベレリン処理)

2. 令和3年度技術修得研修（第1班）開講

5月17日、県内外から8名の研修生を迎え、技術修得研修（第1班）を開講した。研修生は、5月～9月の5ヶ月間（全25日間）、講義と実習を通じて、農業の基礎的な知識や技術を学び、就農に必要な実践力を身につけていく。午前は、開講式に引き続き、県内の果樹・野菜・花き産地の概況について講義を行った。午後からは、動力噴霧器、草刈機の取扱いについて実習をした。就農支援センターでは、研修生が本研修終了後にスムーズに就農できるよう、充実した研修メニューで支援していく。



技術修得研修の開講式



農作業機械に関する実習
(草刈機の取扱いについて)

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489